

キャリアガイダンスにおける「責任」の意味

オートエスノグラフィーによる探求

What is the Meaning of "Responsibility" in Career Guidance?: An Autoethnographic Inquiry

土元 哲平

Teppeï TSUCHIMOTO

立命館大学文学研究科

Graduate School of Letters, Ritsumeikan University

Key words: career guidance, responsibility, autoethnography

目的

近年、大学生のキャリアガイダンスにおいて、学生が主体的にキャリア決定を行うための開発的支援の必要性が指摘されている。たとえば、「学生が今後の人生を歩むなかで社会的・職業的自己実現を成し遂げることができるように必要な力や態度を育む」(永作, 2012, p.122)ことが重要だとされる。

こうした社会的意義を踏まえれば、どのように学生のキャリアをガイドしていくことが、学生の主体的なキャリア決定に対して有効かを問う必要性がある。これまで著者ら(土元・サトウ, 2019)は、キャリアガイダンスを行う立場としての大学教員であるA先生を対象に、日常的なキャリア支援についてのインタビューを実施した。結果的には、A先生が日常的に学生に対して実施している「キャリア支援モデル」を構築することを通して、学生が主体的にキャリア決定を行うことを支えるキャリアガイダンスの一つのあり方が明らかになった。

しかし、土元・サトウ(2019)では、A先生が日常的に実施しているキャリアガイダンスのあり様をモデル化するに留まったため、A先生がキャリアガイダンスを実施するに際して、どのような困難を抱えていたのかについては十分に扱えなかった。そこで、本研究では、A先生のキャリアガイダンスのあり様をより深く理解するために、その困難さに焦点を当てながら分析を行うことを目的とする。

方法

本研究での協力者であったA先生は、著者の修士課程時の指導教員であった。すなわち、研究アプローチとしては、オートエスノグラフィー(Ellis & Bochner, 2004)を採用した。オートエスノグラフィーは、研究者自身の文化、あるいは研究者と親密な関係のある人々を対象として行われる記述的な研究アプローチであり、「一般的な文化的経験について、より広い理解を得るための個人的経験の記述および分析」(Tangene, 2017, p.40)と定義される。

データ収集方法としては、A先生とキャリア支援について語り合うインタビューセッションを1~2時間程度×4回

実施した。また、分析途中及び分析終了後にメールと対面でデータの解釈についての確認を行った。

結果と考察

本研究では、A先生の語りにおける「責任」という語を手掛かりとして、著者自身のオートエスノグラフィーを交えながら考察を行った。

A先生と語り合う中で、A先生は、自らのキャリアガイダンスの困難さを「回収できない責任」と表現した。つまり、教師が学生に助言等を行う際に、「責任を取ることができない状態でその言葉を発することになる」ことである。A先生によれば、そのような「責任」によって、キャリアガイダンスを行う際に「自分自身が勝手に責任を感じて、後悔したりすることもある」という。

もちろん、現実には学生のキャリアはすべて「主体的」になされるとは限らない。つまり、学生はより広範な社会的な価値や、文化による制約を受け、キャリア選択を行うこともあるだろう。また、キャリア支援者とはほとんど無関係な文脈で、他者の影響を受けることもある。

そのような場合に、キャリア支援者は、学生の主体性を重視する一方で、そこでの「責任」の意味はどのようなものであり、どのように向き合っていく必要があるのかについて、考えていく必要があるだろう。

参考文献

- Ellis, C., & Bochner, A. P. (2000). Autoethnography, personal narrative, reflexivity: Researcher as subject. In N. K. Denzin & Y. S. Lincoln (Eds.), *Handbook of qualitative research* (2nd ed.) (pp. 733-768). CA: Sage.
- 永作 稔 (2012). 支援はどう進めるべきか. 若松 養亮・下村 英雄 (編). 詳解 大学生のキャリアガイダンス論: キャリア心理学に基づく理論と実践 (pp.122-136). 金子書房.
- Tangene, C. (2017). The "Silence" of the Ocean: Affective Self-Dialogue on a Sailing Night-Shift. In O. V. Lehmann & J. Valsiner (Eds.) *Deep Experiencing* (pp. 39-50). Cham, Switzerland: Springer.
- 土元 哲平・サトウ タツヤ (2019). 教員志望学生に対するキャリア支援モデルの生成 —— 大学教師へのインタビューによる探求 ——. 日本心理学会第83回大会. 立命館大学 (大阪) 2019年9月